



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 161 April. 1. 2020

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部
〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMビル
電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924
郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」
銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店
普通1222073 「日本山岳会東海支部」
編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



マカルー登頂50周年 マカルー峰(8463m) 関連記事P4

目次

○令和2年新年懇親会報告	毛利邦男	2	○東海支部の		
			蔵書からの一冊㉓	石田文男	15
○東海支部登山学校			○同好会コーナー スケッチ	村中征也	16
令和2年度事業計画	榊 将美	3	○東海支部俳壇		
○東海支部「マカルー学術遠征隊」			○60山ラリー経過報告	林康太郎	17
派遣50周年	尾上 昇	4	○60山ラリー登山記	鈴木愛子	18
○支部員だより			○委員会報告 技術向上		19
壊れた膝を修復する①	和田豊司	9	東海Youth/山行		
○トピックス		10	東学連		
○石川富康氏追悼	鈴木常夫	11	○支部友コーナー	金谷正起	22
○東海岳人列伝⑭	西山秀夫	12	○会務報告	毛利邦男	23
			○ルーム日誌・会員異動	毛利邦男	26
			○INFORMATION		27
			○編集後記	星 一男	

令和2年新年懇親会報告

総務委員長 毛利邦男

令和2年の新年懇親会が1月19日(日)17時から80名の参加者を得て(うち9名は講演会のみ参加)今池ガスビル8階の「ガス燈」にて開催された。



高橋支部長の年頭の挨拶



岐阜支部長高木基揚氏挨拶

高橋支部長からの年頭の挨拶の後、来賓としてお越し願った日本山岳会岐阜支部長の高木基揚氏からお祝いの言葉を頂戴した。



講演 廣瀬 学氏

講演会

今年はNHK名古屋放送制作部の廣瀬 学ディレクターを迎え「ディレクターが独断で語る！NHK山番組の世界」という演題で講演をお願いした。昨年開催された夏山フェスタでも同じ演目で講演されたが、今回は普段我々が目にするのできない貴重な動画もたくさん見せていただきながらの講演で、参加者には大変喜んで頂けたと思う。



乾杯の発声 片岡副支部長

懇親会

講演会終了後、懇親会に移った。片岡副支部長の発声による乾杯の後、来賓の高木岐卓支部長、廣瀬氏も交えて和気あいあいの雰囲気の中、会場は大いに盛り上がった。今年も、九州在住の石原國利名誉支部員から送られてきた銘酒「黒田武士」も振舞われた。最後は、東海学生山岳連盟の諸君の一本締めでお開きとなった。

登山学校開校完成年度を迎えて

登山学校運営委員長 榎 将美

1、はじめに

令和2年は、登山学校において、第一クール(2017年7月～2020年6月)の残り6か月と第二クール(2020年7月～2023年6月)開始の年にあたり、登山学校の「基盤作り総仕上げ」と「改善・継続」のまさに「分水嶺」にあたる重要な年度であるとの認識を持っている。

2、第一クールの仕上げ

- ①卒業生(満期修了者)の支部員への勧誘開始
支部各委員会、同好会への勧誘を促進する。
- ②特待生および優秀人材の次期指導員への登用
指導員候補者研修の実施(2020年1月～2020年6月)によりノミネートする。
- ③登山学校として機関保険の加入
第三者に対する賠償事故補償を担保する。



3、第二クールの重点事項

- ①登山学校OB・OG会(仮称)の設立
三か年の受講修了年度を迎えた受講生の新たな活動の場づくり。
「自立した登山者」を实践する山仲間との出会いの場づくり。
- ②受講生の新規募集と受付
支部員・支部友会員の優先入校を推進する。(4月より開始)
他薦による入校希望者の受入れを開始する。(4月より開始)
夏山フェスタでの新規募集を推進する。(6月実施)
- ③第4期カリキュラムの編成
机上講習および現地講習の日程・内容を起



- 案・検討する。(3月決定)
- ④新規各教室・クラス分けの編成
各教室、各クラス分け担任及び副担任の選任を進める。
- ⑤次期指導者の育成
特待生制度の継続と支部員からの候補者拡充を進める。
指導員研修を継続する。
- ⑥支部創立60周年事業への積極的な参画
運営委員および受講生のプロジェクトへの積極的な参画を機会ごとに促す。

4、入校申し込み先

登山学校事務局：奥野明美

E-mail: tac-okuno@mbi.nifty.com

- ・会員番号/氏名/住所/電話番号/生年月日/書類が送れるメールアドレス/山行履歴/受講希望クラス(初・中・上)を明記してください。
1. 希望者多数の場合は、第5期入校になる場合があります。
 2. 入校年齢は概ね65歳以下としています。
 3. 希望の教室(初級・中級・上級)に沿えない場合があります。
 4. 机上講習、現地講習は土曜日、日曜日に実施します。
 5. 午前6時30分頃の指定地集合に間に合うことを条件としています。
 6. 登山保険(遭難捜索救助費用付き)に加入していることが必須です。
 7. 個人情報取り扱いは支部規定に準じます。
後日入校説明会(オリエンテーション)を行いますのでご参加ください。支部員、支部友会員の皆様の入校をお待ちしております。

東海支部「マカールー学術遠征隊」50周年

常任評議員 尾上 昇

はじめに

1970年東海支部は、ネパールヒマラヤのマカールー峰(8463m)に登山隊を送った。マカールーの南東稜からの初登攀とマカールーの第2登を目指すものであった。

登山隊の正式名称は、「マカールー学術遠征隊」である。南東稜の登攀のほかはこのエリアの学術調査も含む登山隊である。この登山隊が派遣されてから、今年で丁度50周年の記念の年を迎える。

この登山隊は、ヒマラヤの高峰の初登頂が一通り終わり、次の課題となるバリエーションルートからの登攀の先鞭をつける画期的な登山であった。この記録に対しては、世界中の登山家から大変注目を集め高い評価を得ている。

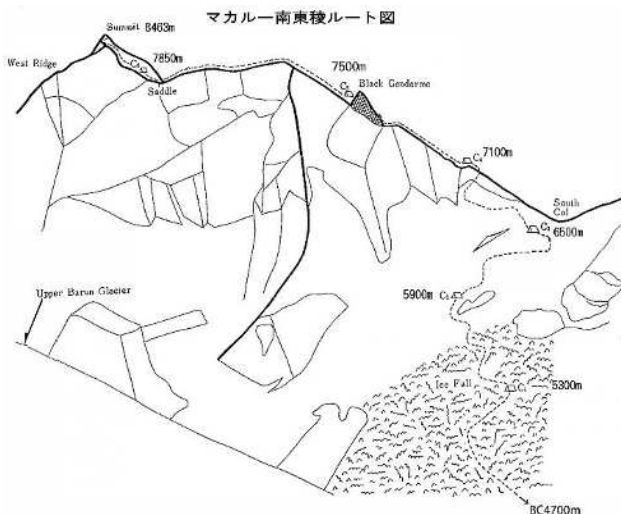
当時のヒマラヤ登山は、「日本を出発すれば、半分成功したようなものだ」と言われていた。出発までの準備活動に膨大な労力を要したからである。先ず乏しい現地の情報の収集からである。次いで登山許可の取得である。これが大変厄介であった。目的の山の登山許可が得られてから準備活動がスタートする。その山の調査分析、装備の研究や開発、食糧計画、物資の調達、資金の調達等々、日本を出発するまでの準備活動に忙殺される。これが「半分成功」の所以である。

このマカールー登山隊もその例に漏れず、登山許可の取得から日本を発つまでの苦労は計り知れなかった。更に山に入っても、キャラバンは難渋を極め、実際の登山活動も苦闘の連続であった。特に最終段階での頂上アタックの局面は、想像を超えるドラマチックな展開となった。計画の立案から登頂成功に至るまでの一連のストーリーは、波乱に満ちた壮大ドラマであると言ってもよい。

今年の50周年を契機に東海支部の関係各位に今一度、先人達の成し遂げた偉業を認識してもらうには、良い機会であると思っている。

東海支部の設立とマカールー登山計画

東海支部は、1961年に設立されている。動機は、この地方からヒマラヤに登山隊を送り



南東稜ルート図と各キャンプ

出したいと願う若い登山家達の熱意からであった。

当時のヒマラヤ登山は、人材や資金調達能力に恵まれていた有名大学山岳部を中心とする強力な組織からのみ可能であった。

日本山岳会の支部としたのは、日本山岳会がヒマラヤ登山の許可申請と外貨枠の申請窓口となっていたからで、その支部とすれば、何かと便宜が計られ得られようとの意図からである。

目標の山は、支部設立以前から一部の有志の間では未踏の怪峰ジャヌー(7710m)の名前が上がっていた。ジャヌーは、1961年フランス隊によって初登頂されてしまう。次の目標として未踏のローツェシャル峰(8283m)が上げられた。支部は、ローツェシャルの1965年の派遣を正式に決めてネパール政府に登山許可を申請する。まもなく登山許可が下り、ここに東海支部の最初のヒマラヤ計画が実現する。

ところが、外部で思いも掛けない問題が行進していた。それは、早大隊もローツェシャルを計画していて、その外貨枠を日本山岳会を通じて申請していたのである。

当時外貨は、誰にでも自由に買えるものではなく、多大な外貨を必要とする海外登山隊などにとっては、外貨枠が得られないのは致

命的であった。

登山許可では東海支部に、外貨枠では早大に優先権があるというねじれ現象が起きてしまったのである。両者の間で話し合いの場が持たれた。

譲れ、譲れぬである。何度も話し合われたが、両者一步も引かず議論は平行線をたどるばかりであった。いたずらに時が過ぎる。とうとう見るに見かねた日本山岳会が仲介に入る。それでも埒が明かず最後は、日本山岳会一任となった。この時点で東海支部の不利は明白である。両者の力量の差である。日本山岳会は、早大隊に軍配を上げた。

東海支部は、止むを得ず再々度の目的の山探しである。人を介して1965年で空いている山をネパール政府に問い合わせた。その結果8000m峰では、マカルー(8463m)がどこからも申請されていないことが判明。

マカルーは、1955年フランス隊によって初登頂されている。東海支部では、未登の南東稜からのマカルーの第2登を目指してネパール政府に許可の申請を行う。

申請は受理されたが、はたまたとんでもない事態に巻き込まれる。登山申請して間もなく、ネパール政府は、1965年から当分の間ヒマラヤの登山を全面的に禁止することを発表したのである。いわゆるヒマラヤ登山禁止令である。その根拠は、印パ戦争の激化の累及であるという。東海支部のヒマラヤ登山計画は、またも白紙に戻された。このことは、日本に限らず世界の登山界がヒマラヤから閉め出されたのである。世界中の登山家は、ヒマラヤ以外の山を求めてそれこそ世界中に散った。一方、早大隊には既に許可が下りていることからローツェシャルの遠征は実現している。実に皮肉である。

ヒマラヤを諦めた東海支部の転進先は、南米の最高峰アコンカグア(6960m)の南面に聳える南壁の登攀であった。東海支部は、1966年その南壁のフレンチルート第2登に成功する。その後の東海支部は、アコンカグア隊のメンバーを中心に、静かに時を待っていた。

1968年1月ネパール政府は、近々ヒマラヤの登山禁止を解くと発表。この報を受け万を持っていた支部は、一気に活気づく。温存していたマカルー計画を再燃。マカルーに1969年

調査隊、1970年に本隊の派遣を決める。調査隊の目的は、南東稜のルート偵察と1970年の本隊の登山許可取得である。

1962年2月、松浦隊長以下4名の調査隊は、カトマンズに入る。



雪のシプトン峰越え（ポーターの列）

まずは、ネパール外務省の窓口訪問である。窓口の対応は、冷たかった。近々解禁するとは発表したが、時期は決まっていないというものである。翌日も翌々日も毎日窓口を訪問するが答えは一緒であった。在ネパール日本大使館にも相談したがけんもほろろであった。この時、日本山岳会本部も1970年のエベレストの登山計画を立てていて、同じ目的でカトマンズを訪れていた。しかし何の収穫も得られず、すどすどカトマンズを去っている。本部のエベレスト計画は完全に頓挫である。

松浦隊長は、そんな毎日の訪問の中での雑談で注目に値する情報を得た。それは、1969年の秋に西独隊にダウラギリの特別登山許可が下りていることである。何故西独隊に特別の許可なのかの理由を尋ねた。それは、西独の外相が外遊の途中にわざわざカトマンズに立ち寄ってダウラギリの許可を求めたからであるというのである。

松浦隊長は思いついた。同じ手段を講ずれば我々にも許可が下りる筈だと。日本の外相がその為にカトマンズに来てもらうことなどは到底望むべくもない。しかし、その指令を受けた在ネ全権日本大使が動けば同じ状況が生まれることになる。

松浦隊長から、日本の事務局に対して至急外務省を動かせとの要求が入る。突然こんな

事を求められても即座に対応できる術は思い浮かばない。渉外を担当していた原と尾上は頭を抱えてしまった。計画を正式な解禁発表後からに延期せざるを得ないのかと、半ば諦め気味で、自棄酒を飲みに出掛けた。

味気ない原との会話の中で尾上は、ふと本隊の隊員予定者の中に大物政治家とコネクションを持っている者がいることに気が付いた。川口である。川口の父親は、新潟の越山会の幹部であった。越山会とは、当時、飛ぶ鳥をも落とすといわれていた自民党の幹事長田中角栄氏の後援会である。

その場から川口に連絡。田中幹事長のアポイントメントを取る。数日後の払暁、目白の田中邸の前に尾上と川口が立つ。田中幹事長は、外務省牛場信彦事務次官を紹介。その足で外務省へ赴き牛場次官と面談。在ネパール日本大使に登山許可取得の交渉に当たることの指示を依頼した。

その日のうちに指示が届く。面会すら拒否していた在ネパール日本大使から呼び出しがかかる。今度は、在ネパール日本大使同道でネパール外務省と交渉に当たる。思惑通り交渉は一気に進展。ネパール政府から次の確約を得る。

「まだレギュレーション(登山規則)が出来上がっていない。調査隊がカトマンズに帰るまでには作成しておくので、その時点で許可を出す」であった。

調査隊は、マカルーの南東稜の偵察を終え、併せて1970年のマカルー許可証を携えてその年の5月帰国した。

言を待たない。松浦隊がかたくななネパール政府のヒマラヤ解禁の扉を少なくとも一シーズン早く開かせたのは事実であり、解禁後の世界で最初のヒマラヤ登山許可第1号を手にしたのは、まぎれもなく東海支部のマカルー隊であった。ここに1970年の東海支部マカルー学術遠征隊は正式に誕生した。

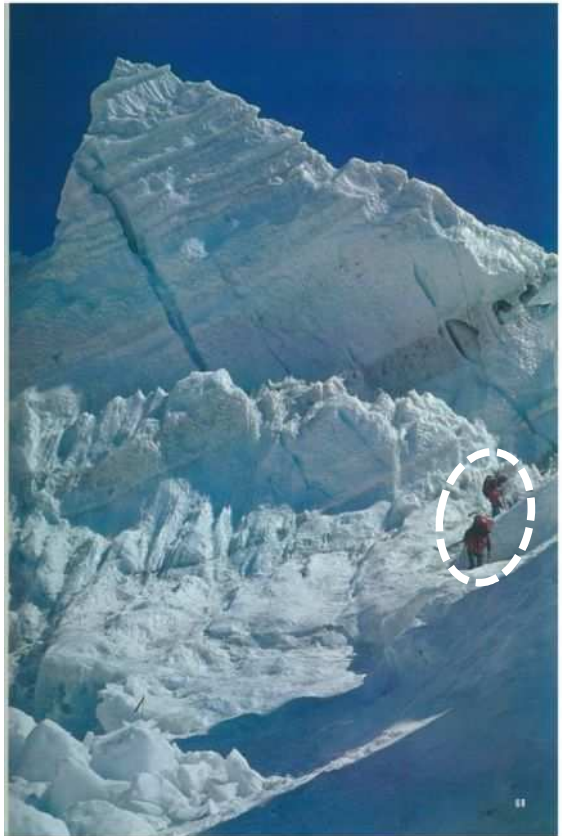
マカルー登山隊

マカルーの本格的な準備活動は、調査隊が帰国してから始まった。

まずは、タクティクスである。マカルーエリアの登山情報や現地の情報が乏しかったので、ここからのスタートである。こんな中での調査隊のもたらした情報は、大変貴重であ

った。

当初計画は、未踏の南東稜を登攀。頂上からは、初登ルート of 北西稜を下りてBCに戻る横断であった。検討を重ねるうちに8000m峰に2つ同時に登山隊を出すと同じで、物量、人員、資金など莫大なものになることが予想



アイスホールに行く

された。とても無理であると判断して、南東稜一本に絞る。

BCは、バルンボカリ近くの4700mの谷間の台地。南東稜のサウスコルへは、正面のアイスホールにルートを取る。固定キャンプは、6ヶ処に設置するなどの基本のタクティクスを決める。

これに沿って計画が進められた。ルート研究。酸素や燃料の検討。装備の研究。食糧計画等々である。更には、日常のトレーニングや山に入ってから登攀技術の確認と修得なども実施されている。

その中で渉外担当の原と尾上が頭を痛めていたのが資金調達であった。後援のマスコミ

各社からの支援が多くを望めなかったことから自前での調達を余儀無くされた。総経費約4,000万円は、主に名古屋財界の支援を受けて何とか出発直前までに間に合わせた。

全ての準備を整えて、1970年2月14日本隊15名は、羽田を発った。機上の人となった尾上は、これ迄の苦労を思い返ししながら「本当に遠征が実現したのだ」との実感と同時に「俺の役目は終わった」との思いが交錯した。

本隊と先発隊は、カトマンズで合流。2月22日、隊荷11.6トン。隊員とシェルパ合わせて45名。ポーター440名の大キャラバン隊がダランバザールを出発する。

アルン川沿いのキャラバンは、順調に進む。只、BC手前の雪の残るシプトン峠越えが心配された。3月初旬にこれだけの大人数が峠を越えた記録はない。

やはり、シプトン峠は、雪の中にあった。満足な装備のないポーターに雪の4000mの峠越えは、無理であった。運動靴を買いあてがったり、ビニールシートで簡易テントを用意した。おまけに峠は、吹雪に見まわれ通行不能となる。隊の中には、このまま峠が越えられず、全体の計画に大きな支障が生じるのではとの危機感が広まった。結局シプトン峠を越えるのに10日間を要した。

先発隊が編制され、3月22日にBCが建設される。3月24日主力隊がBC到着。早速、翌25日から正面のアイスホールのルート開拓に入る。

4月1日南東稜のサウスコルにC3が建設。遅れを一気に取り戻す。余りにも順調なすべり出しに4月中の登頂も可能だとの楽観論が飛び交う。

ところが実際には、甘くなかった。南東稜は、牙を剥き出した。C3からの困難な岩稜にルートを阻まれる。その上に高山病にやられる隊員が続出。BCは、野戦病院さながらとなった。

この為、C4建設は遅れ4月24日であった。その上には、南東稜最大の難関ブラックジャンダルムと呼ばれる岩峰が聳えている。天候の悪化も手伝い、このブラックジャンダルムを突破するのに17日間を要した。すでに予定の計画日程を大巾に超えていた。

人間の思考は、面白い。状況によって直ぐ

楽観論と悲観論が交差する。この時点では、ひょっとすると時間切れで撤退か、の文字が頭を過る。

10kmに及ぶ南東稜は、さすがに長い。アタックキャンプC6が建設されたのは、5月18日であった。BCは、食糧、燃料、酸素が残り一週間で尽きることから各キャンプには最低人員だけ残して、あとはBCに下りることを指示。余った物資を全量ハイキャンプに上げる。

C6を建設したのは、川口と後藤であった。ここでアクシデントが発生する。彼等が持参したトランシーバーが故障したのである。音信不通となったがそれでも彼等は、2日間南東稜上部のルート工作の役目を果たす。C6には、その後アタック隊と支援要員が入る予定になっていたが、これがメンバーの体調不良と天候の悪化でC6に上がれなかった。

5月21日、モンスーン直前の好天が訪れた。



ブラックジャンダルム突破

この日に下りる予定の川口、後藤は、誰も上がって来ない事に不審を抱く。何か不都合が起きたに違いないと判断。この好天を逃すと

登頂のチャンスは無くなると、独自にアタックを決める。

川口、後藤は、未明C6を後にする。夕刻の午後6時30分まで行動したが、頂上まで達することができず、天気も悪化しだったので退却した。その場所は、頂上まで60mを僅かに残す8400m地点であった。帰路2人は、8300m地点でビバーク。苛酷であった。

同じ21日、アタック隊の田中、尾崎がC6に入った。C6は、蛻の殻であった。トランシーバーの故障で2人の動静が丸2日掴めなかった。21日も川口、後藤は帰ってこなかった。BCは、遭難を疑った。22日の朝から田中、尾崎に2人の搜索を指示する。南東稜の周辺を捜したが2人の消息は、午後遅くなくても掴めなかった。

BCは、川口、後藤の両名を遭難したと判断。この事故を早く報告するために、翌早朝BCを発って日本に帰国せよとの指示が尾上に下された。この時点で、尾上は長かったマカルー遠征の全てが終わったことを悟った。2人のテントに入り、家族に渡す遺品をザックに詰め込んでいた私の頬には、涙がとめどなく伝わった。

その時である。誰かが大声で叫んだ。「2人発見。田中、尾崎が救助に向かっている」。

川口、後藤は苛酷なビバークに耐えC6に向かったが、二人共凍傷と雪盲にやられ満足に歩けなかった。田中、尾崎は夕暮れ近く、ノロノロと下りてくる2人を発見。2人をC6に収容する。腑抜け同然の2人の介護に当たっているうちに第2次攻撃要員の市川、浅見がC6に到着した。

BCと協議の結果、田中、尾崎の両名のアタックを決める。まさにラストチャンスであった。2人は、仮眠僅か1時間で23日午前2時30分、C6を頂上に向かって出発する。2人は、23日の午後7時10分、日没直前のマカルーの頂に立った。彼らは、月明かりの中を下り続け24日の午前3時30分、C6に帰り着いた。

田中、尾崎の行動は、22日、川口、後藤の搜索と救助、そして介護。仮眠1時間でC6を出発。その後の24時間を越す連続行動であった。この2人の行動は、超人的と言わざるを得ない。後日談であるが、この2人の余りにも凄まじい超人的な行動に一部の登山家から登頂を危ぶむ声が出た。本来なら頂上の写真が証明になる。残念ながら途中でカメラが凍り、フィルムが千切れてしまったのである。

2人が頂上に立ったと言っているのである。それだけで充分である。そんな話は歯牙にもかけはしないが、気分は良くない。この事は、翌年フランス隊が西稜から頂に立ち、田中、尾崎が埋めたピッケルと日章旗を持ち帰ったことで、誰も噂する者はいなくなった。

このマカルー登山は、世界の登山家から高い評価を得ると同時に、ヒマラヤ鉄の時代(バリエーションルートからの登攀)の幕開けを告げるものであった。通俗的な物言いをすれば、オリンピックで金メダルを取ったのと同じ価値があるのだと言える。

東海支部の海外登山は、アコンカグア南壁からマカルー、そしてカラコルムの山々、天山、インドヒマラヤ、K2、ローツェ南壁へと輝かしい実績を積み重ねていったのである。

最後に1970年の秋に発行された『週刊文春』のマカルーに関する記事を紹介して締めくくります。



凍って千切れたフィルム (左：エベレスト 右：ローツェ)

ヒラリー卿が選ぶ登山隊3

来日したエベレスト初登頂者ヒラリー卿が立山連峰にのぼったさい、今年ヒマラヤにはいった各国登山隊のベスト・スリーなるものをあげた。

いわく「マカルー東南稜から登頂に成功した日本山岳会東海支部隊、アンナプルナ南壁の英国人を中心とした登山隊、ローツェシャルのオーストリア隊」。その基準だが「ルートの難度および登山に対してのたくまざる努力において、また効率のよさにおいて」(ヒラリー卿)、これら3パーティをあげたわけ。日本山岳会隊エベレストは、ついに一言も言及されず。

「一億円のお祭りさわぎをやって、南壁は失敗。あんなやさしいルートだけでは、ハジを世界にさらしたと同じ。ま、三流の登山ですね」(東海支部)とはひどい評判のワルサ。

五月に登頂したマカルー(8480m)はヒマラヤ第五番目の高峰だが、その東南稜ルートはかつてヒラリー自身も失敗、アメリカ隊、フランス隊をもしりぞけた“難度ウルトラC”。東海支部の成功はもちろん世界初の快挙だ。

「日本ではどうしてマカルーよりエベレスト登頂をさわぐのか、と外人記者も首をかしげていましたからね。ヒラリー卿の評価も当然でしょう」(東海支部)とは“真の英雄たち”の弁。(1970年秋発行『週刊文春』より)

— 会員の広場 —

支部員Medicalだより

壊れた膝を修復する I

猿投の森づくりの会代表 和田豊司

目標は5, 6時間のトレッキングや岩場のない登山ができるようになる!

(1) どうして膝関節が壊れてしまったか

膝の関節痛を直すとか、ならないように予防する話ではない。そのような話はお医者さんに任せる。なってしまった、もしくは壊れてしまった膝関節をどう修復するかのものである。支部の方々には小生と同じ様な悩みや症状で悩んでいる方が意外と多い。かっこ悪いので人には公言しない。最近出てこないがどうしたのか尋ねると実は……となり、関節が痛んで山に行けないことがわかる。そのような方に参考になればと思い報告することにした。

ここ数年山らしい山に行けなくなっている。昨年登った一番高い山は蓼科山(2,531m)や八子ヶ峰(1,869m)に孫と登ったのが最後、最近では猿投山に上るのがようやくである。月に2回ほどチェーンソーをもって森の作業をするのがしんどくなってきている。

昨年(2019年)10月のある日突然歩けなくなった。膝をそっと回し、だましまし家に入りしばらく休んでいたら“ちんば”を引きながら歩くことができるようになった。

10数年ほど前、膝に痛みが出てからたくさん



大学の夏山合宿入山時の様子

の専門病院で診察を受けている。愛知医大、三菱病院、名鉄病院、名古屋市立西部医療センター、名古屋通信病院、米田整形などどの病院に行っても診断結果は変形性膝関節症である。ヒアルロン酸の注射はほとんど効かない。

先が思いやられて膝を人工関節にすることを内心決めた。さてどこの病院にかかるか?いざとなると大問題である。関節専門病院で股関節を手術し、良くなったM女史の話を聞きその病院を訪ねてみた。

家から近く、症例が非常に多く関節専門病院

であることが気に入ってそこで手術することを決めた。ところが2019年10月に手術を申し込んでも実施は2020年5月しか予約が取れないとのこと。仕方がないので待つことにした。

その後空気が急に出て2020年2月に手術が決まった。手術前の様子からどのように回復するか？歩けなくなるか？の物語を報告する。乞うご期待！

第1話 膝関節を酷使した歴史を話そう。

山を本格的に始めたのは15才。M高校の山岳部へ入部。年間30日ほどの山行。夏山に穂高・涸沢、春に中央アルプスの稜線に雪洞を掘って三ノ沢岳や将棋の頭まで歩きまわる。合宿でも高々30kg程のポッカ量で膝への負担は感じたことがない。18歳からはD大学の山岳部。年間120日ほど山に入る。この時期に一番膝に負担をかけている。夏山合宿の入山時は50kg程。冬や春の合宿でも40kgにはなる。

それでも膝が悲鳴を上げたことはなく6年間過ぎず。卒業後海外登山6回、トレッキング10数回。膝が痛み始めたのは60歳前頃からである。

1998年62歳で右ひざの半月板、邪魔な骨を内視鏡で除去手術を受ける。この手術で普通の生活やトレッキングには支障をきたさない程度まで回復した。しかし大きな負荷をかける自信がなくなり、支部活動においては登山教室などの指導やリーダーは徐々に辞退した。森の作業や1日数時間の登山はできていたがこの頃から石から石へ跳んだり、下りで跳び降りることが



人の大きさとザックを比較

できなくなってきた。バランスも悪くなりストックが必需品となる。

70才を越えると家の階段の上り下りが不自由（必ず手すりを持つ）で、山へ行っても下りの階段がストックなしでは降りられない。

山へ行くために膝の関節に負担をかけず体力を維持するにはどうしたらよいか。第1に自分の体重を減らす、第2にひざの関節周りの筋肉を鍛える、第3に車に乗らない、などお医者さんはできないことを要求する。おいしいものは食べたい、公共交通機関は面倒で時間がかかるのでつい自家用車に乗る。自分なりの解決方法として55歳から水泳を続けている。週に1回1.5時間マスターズコースに入りでみっちり泳ぐ。タイムを計りながら約1,200mのエクササイズである。家に帰って3時間は放心状態。疲れて体が動かず使い物にならない。心肺機能や筋肉量維持に多少は役立っていると思う。

TOPICS

マカルー登山隊 50周年記念講演会で当時の装備を紹介！

本年は、東海支部が派遣した1970年のマカルー登山隊が50周年を迎える。この記念講演会が今年度の総会の後に開催されることになっている。

この講演会には、この登山隊で使用された装備類等が展示される。この資料の提供を隊員各位に求めたところ、市川、尾崎両氏から貴重な資料が送られてきた。ここでは、その一部を紹介する。5月17日の講演会をご期待いただきたい。



追 悼

石川さん追悼

鈴木常夫

1960年代初期、石川さんは果敢に積雪期の穂高岳の岩壁の初登攀に挑戦し実績をあげていた。そのころ私は仲間と積雪期の北、中央、南アルプスの尾根を登っていた。尾根の途中、時たま現れる岩場にてこずるレベルだったから、積雪期の岩壁登攀を実践している男が三河にいるとは想像もつかなかった。実績を積んだ彼は、1965年28歳で念願のヨーロッパアルプスのアイガー北壁を目指したが、他のパーティの遭難救助などで断念。その後イタリアのドロミテへ転進、チマ・グランテに登頂した。そして、持ち帰ったヨーロッパの新しい登山用具。12本爪の出っ歯アイゼン、ユマー、スクリュウ式のパイプアイスハーケンなど目新しいものばかりでわくわくしたものだ。その頃が石川さんと出会で、彼の登山に対する信念に感銘を受けた。1966年29歳で登山専門店「穂高スポーツ」を開業し経営は順調に伸びていった。

磯村義宣さんが創立した碧稜山岳会は、石川さんの帰国後目的を岩壁登攀に定め、石川さんのもとに集まった若者は、徐々に力をつけていき、1975年には石川さんを隊長に会単独隊を編成してカラコルムの鋭鋒ライラ峰（6686m）の初登頂に成功した。その後も、若者たちはそれぞれヨーロッパアルプス、ヒマラヤ、カラコルムなどへ出かけ会の実力が充実していった。

私が属していた山岳会は1970年にヒンズークシュ。74年、82年にネパールへ登山隊を派遣したが、石川さんは快くそれらの若者を強化隊員として派遣してくれ、登山隊の力となった。

東海支部の奥三河集会の席上、このままでは山から遠ざかってしまうなど嘆き節が出た際、50歳でもう一度ヒマラヤへ出かけようと誰からともなく話が出て数名が手を挙げたが、まず体力が問題になった。石川さんの提案で体力測定から始めることになった。隊員で愛知医科大学に勤務していた本庄医師が大学に併設している「運動養育センター」を紹介してくれた。測定の結果は「自己評価が測定評

価を上回っていた」簡単に言えば、「普通のおじさん、おばさん」と測定された。そこで、当時営業していたレッツスポーツの低圧室で5000m近くまで減圧トレーニングも加えたりして、目的の山はまずは既登峰から始めることにした。

そのあたりの経緯は、石川さんが1996年、山と溪谷社から出版した「50歳からのヒマラヤ」に詳しく書かれている。

石川さんは1988年から始まったインドヒマラヤの6000m峰2座に登頂した後、1991年にシルバートール隊に参加54歳でチョー・オユー峰(8201m)に登頂。初めての8000m峰登頂となった。1993年にインドヒマラヤのメントーサ峰(6443m)登頂後は、1994年57歳で愛知学院隊に参加、エベレスト峰(8848m)のバリエーションルートの南稜から登頂に成功。その後は堰を切ったように同様にダウラギリ1峰(8167m)。1995年シシヤパンマ中央峰(8080m)。1996年マナスル峰(8156m)。1998年ガッシャーブルムⅡ峰(8035m)と立て続けに8000m峰5座に登頂した。ここでひと息つくかと思いきや2002年エベレスト峰に北稜から登頂した。

2003年からは7大陸最高峰に挑戦を始め、2008年1月21日南極大陸最高峰ヴィンソン・マシフ(4897m)登頂で計画は達成した。最高年齢記録を更新してギネスブックに認定された。その後は、愛知県山岳連盟会長を務め後進の指導に努めた。

1988年、石川さんと共に立ち上げた東海支部のインドヒマラヤ中高年隊は、2018年まで13次16隊が編成され、目標の16座全て登頂。うち8座は初登頂の成果上げている。彼岸に去った石川さんに報告します。

2019年10月8日逝去 享年82歳



東海岳人列伝(14)

エスペラントと登山を愛したコミュニスト・三ッ石清

編集委員会 西山秀夫

三ッ石清さんが亡くなられたのは2009年8月200日であった。最後までお世話をしていた豊橋市の友人のNさんからの電話では20日の昼に元気付けのお見舞いに名古屋市内の病院へ行ったらご家族が居られて未明に息を引き取られたとのことであった。享年97歳であった。大往生といえる。

出生は1913年(大正二年)11月1日である。昭和元年頃に夜間中学に入学、鉄道省(現在のJRで旧国鉄の前身)に勤務されていたの苦学生であった。3年のときに鉄道省内の講習会で初めて小坂狷二からエスペラントを学ぶ。二年後にロシア文学のプーシキンの「吹雪」を読んでエスペラント文学に魅了された。エスペラントの影響かどうかは聞けなかったが非合法(下)の日本共産党にも入党していた。反骨の人であった。

昭和11年に教育召集で浜松の部隊に行く。ニューギニアへ転属、マラリアで瀕死状態に陥った。特別に与えてもらった蜂蜜で健康を回復し、砲兵補充隊255名のうち17名が内地に帰還できた。その生き残りの一名であった。

1942年(昭和17年)はアテネ書房の『山岳』(総目次・総索引)によると三ッ石さんが本会に入会された年でもあった。昭和17年6月30日現在で何と275名の新入会員が記録されている。三ッ石さんの登山との出会いは鉄道省の仕事で上越の谷川岳の登山道の開発に関わったことをちょくちょく聞いた。上越線土合駅は昭和6年に信号場として開設。旅客開業したのは昭和11年であった。仕事で山に登ったことを楽しげに語られた記憶がある。しかし前述したように昭和11年から戦後までは戦線の只中にいたから東の間の登山であったと思う。



写真上：乗鞍山麓の旅館でサッポロビールの友人に送るからと缶ビールのブランドを前に記念のショット。写真中：乗鞍山春スキーの途中。上中共右は西山。写真下：スキー登山した乗鞍山頂上で。左西山。ここでも缶ビールのサッポロブランドを撮影する。

戦後は仕事、家族運にも見放されたような不運の人生を送られた。すでに32歳になっていた。日本エスペラント協会秋田雨雀会長の元で事務局長を務めた。レッドパーズで鉄道博物館を追放され、安定した職から見放された。

以前名古屋市の市営住宅を訪ねたらザメンホフの肖像が掛けてあった。その際に聞いたのは三鷹のレーニンと呼ばれたほど熱心に政治活動をしていたという。妻と娘二人の家族とも疎遠になったのはこのころであろうか。何分前歴が災いしてか就職もままならず、無収入では家族を養えない。

エスペラントを学んだこと、非合法時代から日本共産党で活動したこともみな社会貢献のためであった。無私の精神であった。家庭を顧みずに活動したことに直接の反省の言葉を聞いたことはなかった。それどころか学生運動の最盛期に連合赤軍の浅間山荘事件の当事者には「あいつらはな、社会のために戦っているんだ」とエールを送っていた。非合法時代の活動と彼らとがダブルのである。そして僅かな年金をもらったことに対しても「俺は社会のために働いてきたんだ」と自負しておられた。

名古屋では名古屋港の港湾労働者として働き、市役所の道路工夫もやった。合間にはエスペラントの弟子の子女に英語を教えておられた。今で言う家庭教師である。生活に困っているかつての恩師に現金を渡すのではなく何とか仕事の形をつくり支援していたのだ。プライドの高さを周知しての窮余の策であった。「日雇い労働者の哲学・三ッ石清さん」としてNHKテレビで15分間放映されたこともあったという。

昭和46年(1971)には日雇い労働者を辞めた。58歳になった。エスペラント通信教育協会の仕事を開始。昭和52年、62歳からは山のお巡りさんとして活動を始めた。環境庁の自然環境指導員の腕章をまいてあちこちの山を巡った。当時、更新する際には公の自然公園を巡回した実績づくりのためによ

く同行した。特に山スキーは指導者がいないのでベテランの彼は貴重な存在であった。エスペラントの指導者から登山の指導者に変換したのである。68歳では健康マラソン八段の免許状をもらったという。朝日新聞主催の札幌国際スキーマラソン大会で10キロを完走したよと報告を聞いた。「俺がマラソンをやるのは君に山スキーに連れて行ってもらうためなんだ」と積極的な電話を頂いたことも忘れえぬ思い出である。

昭和58年(1983年)は70歳となり4月、日本山岳会に再入会された。その手紙を受け取った日に私は三ッ石さんのお宅にお邪魔していた。「おい、再入会を申し込んだらなあ、日本山岳会は入会当時の番号(1936)をくれるというんだ。嬉しいじゃないか」と破顔一笑で嬉しそうに話されたことが今も記憶にある。そのきっかけは当時台頭しつつあった入会資格が40歳以上のふわく山の会を退会されたことにあった。労山は共産党員が主導するが戦前からの筋金入りのコミunistであり、山歴の長い山男と中高年から始めた人と気が合うはずがない。

戦前の会員番号を持つ威力は凄いと思った。「尾上(元JAC会長)や中世古君らが自宅まで送ってくれてな、最敬礼で自宅に入るのを見送ってくれたんだ」と愉快そうに話してくれた。

私も彼を追うように昭和60年に入会した。共に東海支部に所属した。私は町の山岳会の世話にかかりつきりになり、彼とは自然に疎遠になってしまった。何分年齢差が35もある。持ち前の行動力で全国の支部活動に参加されたりしたことを聞いた。そして晩年は故徳島和男さんと親交を結ばれた。徳島さんがK2の遠征隊長になった際「K2はな、生きて帰れんかも知れんぞ、それくらい厳しい山なんだ」とエールを送っていた。徳島さんが穂高涸沢の雪崩で事故死しその葬儀には車椅子で参列しておられた。悲痛な面持ちを忘れない。病で発声できなくなり東海支部40周年記念のコンサート会場ではもう会話も出来なかった。2008年には老人ホームに入居

された。一度お見舞いに行った際には手元に残された数少ない書物の中から西岡一雄『泉を聴く』（中公文庫）を出して私に何かを訴えようとしたのが生前の最後の顔であった。本稿のために読むと「斉藤と僕」の左翼と登山家のことで何か言いたかったのであろう。

遺影には年次晩餐会での写真が飾られていた。襟の日本山岳会のバッジが誇らしげである。九十五歳まで僅かな生活費から会費を支払い続けたのは日本山岳会会員としての矜持だけは持ち続けたかったのであろう。

年譜

1913年11月 静岡県駿東郡清水町に生まれる

1926年 13歳、横浜の小学校卒業、鉄道省に就職
鉄道省夜間旧制中学入学

1929年 鉄道省講習会でエスペラントを学ぶ

1930年 プロレタリア科学主催外国語講習会
エスペラント科中級受講

1931年 18歳、社会主義少年として拘禁2ヶ月

1939年 エスペラント高等学力検定試験合格。
山登り開始

1941年 28歳、招集

1943年 ニューギニアへ転属

1944年 マラリアで瀕死状態、砲兵補充隊25
5名で帰還した17名の1人

1947年 レッドページで鉄道博物館追放

1948年 日本エスペラント協会事務局長退任。
北海道から名古屋放浪、道路工夫、名古屋港
港湾労働者、臨時工、家庭教師（英語）
日本共産党指導部主催の懇談会で宮本百合
子らの讐咳に接する。

注：宮本 百合子（1899年（明治32年）2月13日

- 1951年（昭和26年）1月21日）は、昭和期の小説家、評論家。旧姓は中條（ちゅうじょう）、本名はユリ。

日本女子大学英文科中退。17歳の時に『貧しき人々の群』で文壇に登場、天才少女として注目を集め、その後もプロレタリア文学の作家、民主主義文学のリーダー、左翼運動家として活動した。日本共産党元委員長宮本顕治の妻で、宮本と共に投獄、執筆禁止などを繰り返した。

1961年 アジア・アフリカ作家会議に参加の
巴金に挨拶

注：巴金（ばきん、1904年11月25日－2005年10月17日）は中華人民共和国の小説家、翻訳家、エッセイスト。本名は李堯棠、巴金はペンネームである。由来は、自殺した友人・巴恩波とクロポトキン（中国語：克魯泡特金）からとったもの。「バクーニン（巴枯寧）とクロポトキンからとった」という説もあるが、これは文化大革命時、巴金に罪を着せるためのデマであり、事実ではない。エスペラント語の使用者として、中国エスペラント同盟に参加。

1965年 勤労者エスペラント教育教会結成

1971年 日雇労働者を辞め、エスペラント通
信教育教会を発足

1977年 環境庁の自然保護環境指導員～1992
年まで務める

1981年 健康マラソン8段

1992年 71歳、名古屋市立植物園ボランティ
アガイド

1995年 82歳、日本エスペラント大会 文芸
コンクール創作部門第二席入選

2006年 91歳、老人保健施設 第一若宮入所

2009年8月 95歳 逝去



東海支部の蔵書からの一冊⑳

図書委員会委員長 石田文男

『山のABC』1・2・3

編者・尾崎喜八・深田久弥・串田孫一
・畦地梅太郎・内田耕作

「メルヘンの・・・」のイメージを強く抱かせる一つに『山のABC』があげられる。発売当時、こんな想いをこめて購入したのがなつかしい。

「・・・一つの山に登ってよかったと思っても、さらにいい登り方をするのにはどうしたらいいかを考えます。見てくださればおわかりに・・・これは山の辞典ではない・・・山の辞典の役目をすることもあるが・・・、山の事柄を覚えていただくための本ではありません。一頁一頁、写真や絵を眺めて下さりながら、また文章を読んで頂きながら、あなたの山を思い出して頂くように作ったものです。・・・あなたの山の経験から、あなたの山のABCを想って下されば、それはもっと嬉しいのです」と製作への思いを第1集の後記で述べている。そして全編が自らの山登りをどう捉えていくかを語り掛けてくる。

さらに楽しい読みものたるを暗示させてくれるのが、それぞれの箱表紙の文だ。「あれから3年、第1集をお届けしてから、山々も3度の新雪を迎えました。思い出は年とともに美しく残ると言いますが、あなたの心にも山のABCのかずかずの絵や写真や詩文の断章が、強く、強く焼き付けられている」（第2集）。

「3冊の山のABCがそろいました。1・2集ですっかりあなたの心を捉えてしまった〈詩と光と線〉の魔術師は、さらに新しい仲間を加え、山のアルファベットの妖精たちが輪舞する幻想の美の世界にあなたをいざないます。いつ果てるともなく繰り展げられた絢爛たる山の祭典も、いま、華麗な終曲を奏でようとしています」（第3集）。

頁を繰っているとPとTに眼がとまる。

P: ピッケルPickel 「山に登りはじめて、靴の次に何が欲しいときかされると、ほとんどの人がピッケルと答える。・・・力学的に曖昧さを許さない力強さや快い曲線、それにも



まして匂うようなはがねのにぶい光具合、やっぱり山男の看板である。ピッケルは文字通り山男の魂である。氷河の底に落ちて、奇蹟のように助けられたガイドが、〈ピッケルを置いてきてしまったからもう一度クレヴァスの中へ下ろしてくれ〉といった話。ピッケルをいだいて雪稜の一夜を過ごしたことのある者は、その気持ちがよくわかる。一本のピッケル、それは山を想う心である」

S: 双六谷源流 「一つの川の運命／これほど詩的な、劇的な見ものも数少ないことだろう／灌木さえ根を下ろさない高所で夏の残雪が陽に溶ける／それはその下で短い夏を待ちわびる草花たちをよみがえらせる／小さな花たちの小さな願いが滴り落ちて、やがて大きな意思の川になるのだ／夏の終わりに残雪が消えると源流の流れがめっきり衰える。しかし川の大きな詩は終わらないことだろう。」

T: 徳本峠 「日本のアルピニズムの歴史の中でトクゴ峠は最初に越えなければならぬものである／峠は人里と人里をつないだ、生きるためにどうしても越えなければならなかった／明治24年の7月に英人宣教師ウェストンが島島からこの峠について時、峠の反対側に人里はなかった／岩と雪の穂高岳が神河内の谷の向こうで神々しくそびえているだけだったのである／その後山へ登るだけのために、人はこの峠をこえ・・・夢を抱いて登

って行った／やがて神河内が上高地になり、
自動車が入るようになると山はにぎやかにな
った／徳本峠だけが昔のままにひっそりして
いるのに」

長い引用になったが挙げればきりが無い。
第1集1959年、3集1969年に出ているが、

どの一つも褪せていることなく、楽しい絵
と写真が満載で胸を打ってくるばかりだ。
ときに山の糧としたい一本である。

昭和54年11月25日 セット第1刷発行
編集代表：串田孫一 発行所：(株)創文社

東海支部俳壇

西山秀夫

新宿京王プラザホテルと天皇陛下ご隣席

天皇と忘年会を同じうす

相州の大山に凍て雲かかる

12/8

雪の富士見つつ道志の山歩く

甲州の人煙まれな山眠る

冠雪の富士を眺めし菜畑山

12/15 鈴鹿・阿弥陀ヶ峰

谷間なる梓河内の山眠る

熊除けのテープを巻きし杉木立

カルストの山の上なる枯木かな

だあんと猟銃音の響けり

12/29～1/6 国境の島・対馬の山旅

12/31 九州百名山の白嶽へ

白嶽の天辺からの冬の海

1/1

枯茅や有明山の頂に

1/2 御岳、平岳

冬木立ツシマヤマネコ現れず

千俣蒔山

枯茅や彼方に見へぬ韓の国

1/3 竜良山

二世紀の樹齢を重ね冬木立

1/5 午後3時 対馬・厳原港を出港

万葉集に歌われた対馬の嶺(有明山)が遠ざかる

対馬の嶺出舟水脈引く冬の海

水脈の果て冬の対馬の嶺を見し

冬の波玄界灘に鷗飛ぶ

会員の広場

同好会紹介コーナー

スケッチクラブ 《第6回作品展》

村中征也

6回目の作品展を、2月12日(水)～16日(日)
に名古屋市の市政資料館で開催、15名・30点を
東海支部始め大勢の皆さんに観て頂きました。
厚くお礼を申し上げます。

山岳会員なので「山の絵が欲しい」…力強い
春夏秋冬の山々の姿を展示出来ました。またスケ
ッチ旅行で訪れた土地や、思い入れの風景・
生物等、個性豊かな作品が集まり、6年間の成
長を感じました。

会場では飲食が出来るので、来客の皆さんを交
えた語らいも貴重で、少し足の便は悪いですが、
市政資料館ならではの良さを活かせました。

《今後の予定》

伊賀上野城～4月4日(土)、三重県の伊賀上野城
を訪れます。築城の名手・藤堂高虎によって作
られた城です。現在の天守閣は1935年に木造で
再建され、石垣の美しさが売りで、桜の季節を
選びました。伊賀上野は松尾芭蕉の生誕地とし
て、また忍者の里としても有名で、緑の場所も



作品の飾り付け後全員で

楽しめます。

乗鞍高原～5月20日(水)～21日(木)乗鞍高原に
1泊旅行します。まいめの池・善五郎の滝・番
所大滝etc. 見所・スケッチスポットが豊富、初
夏の風と高原を描き取って来たいと思います。

絵の心得・腕前は不要です。「山と自然を眺
め」「語らいを楽しむ」がモットーです。気軽
に声を掛けて下さい、お待ちしております。

代表…石田好子 事務局…村中征也・武内喜代子

60山ラリーお知らせと経過報告

60周年記念国内事業担当 林康太郎

60山ラリー状況 (2/25現在)

支部創立60周年記念事業の一環としてスタートした60山ラリーもいよいよ期間半ばにかかってきました。

前回(2020年新年号)よりかなり順位変動がありましたのでご確認願います。

1. 進捗状況 (下記表参照)

2/25現在、登録者数は107名となりました。ここ3か月の間、亀の会・東海コース・登山学校の方などに非常にたくさん登頂登録をしていただきいよいよ活気づいてきました。未登録の多くの支部関係者に参加して頂き、近隣の山巡りをして、山岳会ライフを充実させていきましょう。

107名の方がそれぞれのコースを楽しんでチャレンジしておられます。すでにコースを達成された方が9名、292座登頂された方、活火山のように一気に爆発!させようと登頂リストを手元にため込んでおられる方、数にこだわらず名さえ知らなかった山々を巡る等それぞれ楽しんでおられます。

2. 参加登録について

振込用紙(支部報新年号に同封)で登録費3,000円を振り込んで頂ければ登録完了となります。登録して戴いた方には山名冊子(リスト)と登録報告ハガキ(3枚)を送ります。

登録された方はいずれかのコースで60山登頂を目標にチャレンジして下さい。重複している山岳は他コースにも登録されていますので、自動的に他コースの登頂数にカウントされます。

3. ホームページの公開

HPが1/1~公開されました。支部報に同封しました小封筒の中にHP会員ページへの『パスワード』が入っています。

ログインして頂くと登頂登録、登頂実績など情報を閲覧できます。

HP操作については、HP表紙下段に『操作の手引き』がついていますので、参照し実施してください。インターネット環境をお持ちでない方は、従来通りハガキ報告をお願いします。

コース別登頂状況 --- () 内数字は登頂数 2/25 現在

コース別達成者	1位	2位	3位	4位	5位
100 高山					
1 等三角点	栗木洋明(63)				
愛知県の山	栗木洋明(76)	前田隆久(66)	山田明美(60)	石井 仁(60)	
岐阜県の山	栗木洋明(61)				
三重県の山	栗木洋明(69)				
静岡県の山					
チャレンジ	栗木洋明(292)	石井 仁(111)	前田隆久(92)	山田明美(81)	熊谷美喜子(75)
コース別登頂数ベスト					
100 高山	鈴木愛子(33)	栗木洋明(27)	岡本英俊(12)	山田明美(11)	水野猛志(10)
1 等三角点	栗木洋明(63)	鈴木 浩(24)	前田隆久(17)	石井 仁(16)	堀瑞静夫(15)
愛知県の山	栗木洋明(76)	前田隆久(66)	山田明美(60)	石井 仁(60)	熊谷美喜子(54)
岐阜県の山	栗木洋明(61)	木村孝保(47)	酒井大輔(28)	遠藤 忍(23)	光崎 晋(18)
三重県の山	栗木洋明(69)	石井 仁(31)	堀瑞静夫(15)	石田 誠(10)	榊 将美(9)
静岡県の山	栗木洋明(48)	石井 仁(17)	堀瑞静夫(5)	六郷孝也(4)	近藤政仁(4)
チャレンジ	栗木洋明(292)	石井 仁(111)	前田隆久(92)	山田明美(81)	熊谷美喜子(75)

60山ラリー登山記

東海 Youth 鈴木愛子

2019年9月13日(金)～16日(月)の日程で北鎌尾根からの槍ヶ岳へ行って来ました。

<1日目>

沢渡からタクシーに乗車し上高地へ、朝食をとり6:00発。横尾、ババ平で小休止をとりながら通過し、大曲分岐を過ぎたあたりから急勾配の山道を登り、水俣乗越着。ここからバリエーションルートが始まる。

水俣乗越で休憩をしていると同じルート歩く10人程のパーティが来た。落石を避けるため休憩を切り上げ、北鎌沢出合まで下っていく。上からの落石を遮るものがない谷筋を避け、横のブッシュを下っていく。下り始めはとても急で地面も柔らかい砂地のため、とても滑りやすく、石も落としやすい。横の砂の壁を押さえながら慎重に下るが、足の置き所が悪いと地面が崩れて自分もろとも落ちていくので片時も気が抜けない。最後のなだらかな所を下るときも、先行者がいたため、石が当たらないように間を開けて下っていく。

開けた河原に到着し緩やかな下りになるが、ゴロゴロした石が歩きにくい。ようやく北鎌沢出合に到着。平らな場所を探し幕営。(山田)

<2日目>

朝5時に起き6時に北鎌沢出合を出発。岩がゴロゴロした沢を登り易い岩を見つけながら標高600mほど登る。途中で一人5ℓの水を汲み、そこから足がなかなか進まない。最後に急峻なよく滑る草付きを必死に登り北鎌のコルに出る。そこからハイマツを掴み、時にザックがひっかかりながら進む。時々野いちごが現れ、食べると甘酸っぱくて疲れた身体にしみわたる。当初北鎌平まで行く予定をしていたが、とてもたどり着けない。リーダーも私たちの様子を見極め天狗の腰掛で大休止をとる。周りを見ながら山々に囲まれた景色の中、ブルーベリーのような実を食べ、岩の上で天日干しされそうになりながら仰向けになって目を閉じて蟻を手で払いながら休む。その日はそこから少し歩いた独標取付き手前でツエルトを張った。風が避けられ、ブロックン現象を見ることができ、景色も最高の絶好のテント場となった。(小林)



山頂にて

<3日目>

朝起きると…雲ひとつない夜明けの空には丸い月。今日も快晴。この日は山行のメインである岩稜を進みます。交代で先頭を歩き、時々踏み跡が分かれたりして間違っではリーダーに修正されつつ進みます。暑くてバテた初日、2日目のしんどかった北鎌沢の登りに比べ、楽しいこと！右には裏銀座、左には常念～蝶の展望の中、槍の穂先、小槍孫槍が段々近づいて来ます。最後の岩場を登って…とうとう着きました、山頂に。達成感というより…無事たどり着けたとホッとしたのを覚えています。渋滞の列に並んで降り、肩の小屋でジュースが飲んだのがとても美味しかったです。ここからは歩きやすい道。幕営予定地の横尾へ足を進めました。

念願の北鎌からの槍…楽しかったことも苦しかったこともたくさんありましたし、体力も技術も足りないことだらけでしたが…行って良かった。また、足りなかった力をつけて行きたい、と思います。(鈴木)



委員会報告

【技術向上委員会】

「テーピング実技と体の構造」講習会開催

スポーツにおける負傷の予防、負傷した場合の悪化の防止、捻挫や骨折の際の救急措置には、テーピング技術は不可欠で、登山の救急措置としても身につけておきたい技術のひとつである。1月25日(土)、技術向上委員会では、「テーピング実技と体の構造」について講習会を実施した(参加者39名)。

第1部は、至学館大学短期大学部体育学科専攻科長・教授の佐藤丈能先生による、テーピングの実技講習。今回は、もっとも発生しやすい足首の捻挫の応急措置のテーピングを実習した。



佐藤丈能先生の講習

テープには、皮膚の保護・固定・サポートといった目的に合わせ、粘着・非粘着、伸縮・非伸縮など多種のものがある。今回は、アンダーラップ、非伸縮テープ(CB)、ソフト伸縮テープ(EBH)という三種類のテープを使用。①まず、かぶれなどを防止するためアンダーラップを巻く。②次に、CBで固定する。捻挫の場合、骨格と筋肉の構造上、脚が内側に曲がってしまうので、これを外側向けの力をかけて固定するのがポイント。③最後に保護のためEBHでラッピングをして完了。

第2部は、至学館大学教授・国際山岳医の三浦裕先生による、捻挫を中心とした骨格や筋肉の構造に関する講義。

足首の捻挫は、骨格や筋肉の構造上、ほとんどが内側向けに起き、外側のじん帯が損傷する。捻挫の場合、RICE: Rest(安静)・Ice(冷却)・Compression(圧迫)・Elevation(挙上)が基



実技講習の様様



三浦 裕先生の講義

本で、血流を低下させ出血を抑制するが、反面、血液の低酸素化をもたらし、循環障害を起こす可能性もあることに注意する必要があるとのこと。いざという時のため、身につけておきたい有意義な講演会だった。

技術向上委員会 清水克宏

【東海Youth】

2020年1月26日(日)、奈良県の高見山へ定例山行を実施しました。



レンタカーを利用して目的の山まで行くことが多い中、今回は公共交通機関を使用しての山行となりました。近鉄名古屋駅に集合して電車とバスを乗り継いで行く行程は、ちょっとした旅行気分メンバーの会話も弾みました。

厳冬期は霧氷で有名な高見山ですが、今年は

暖冬の影響で雪がなく、残念ながら美しい霧氷を見ることはできませんでした。しかし、山間に浮かぶ雲海や台高山脈の山深い雰囲気を楽しむながら、鈴鹿や美濃の山とはまた違った趣を楽しむことができた山行となりました。

東海ユース 木村綾子

【山行委員会】

■令和元年12月～令和2年2月の支部山行実施状況

	日程	山城	山名等	参加人数	リーダー
12月	4日	青山高原	髻山	8人	石井
	6日	鈴鹿	天狗堂ほか	9人	鈴木
	14日	三河湾	宮路山ほか	19人	尾上
	14日	鈴鹿	イブネほか	中止	石田誠
1月	8日	掛川	楞厳寺山ほか	中止	石井
	10日	南信	高鳥屋山	6人	鈴木
	11日	京都トレイルほか	仏栗峠ほか	10人	天野
	25日	余呉トレイル	椿井嶺	中止	伊藤祐
	25・26日	北アルプス	上高地	11人	稲葉
	26日	鈴鹿	木和田尾根ほか	中止	石田誠
2月	5日	南信	南沢山ほか	10人	鈴木
	9日	鈴鹿	岩ヶ峰尾根ほか	中止	石田誠
	11日	高島トレイル	二の谷山	中止	伊藤祐
	22日	木曾	富士見台	中止	稲葉
	25日	鈴鹿	烏帽子岳ほか	8人	鈴木
	27日	掛川	楞厳寺山ほか	7人	石井

※支部山行ホームページで参加者を募集していますので、ご覧ください。

山行委員会委員長 鈴木慎吾

【東海学生山岳連盟】

剣 早月尾根

2019年12月28～29日 学生3名 学生連盟OB1名

今回の山行はまさに山からの贈り物という表現が適切であるように思います。メンバーの学生生活の集大成として年末の剣岳を早月尾根から登頂するという、計画をしました。結果、下山時に雨に降られたものの、1日目で早月小屋に辿り着き、2日目に快晴の中アタックという素晴らしい条件の中での山行でありました。この場をお借りして支援をいただきました東海支部の皆様、高橋支部長をはじめ、日頃か



らご指導いただいている皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。メンバー一同学生OBという形で、今後とも支部に貢献できるよう努力いたします。

(大同大学4年 澤井文典)

我々は、劔岳厳冬期の早月尾根を学生生活の集大成の山行として選びました。結果、恵まれた天候が我々を山頂へと導いた。山頂での景色はやはり美しかった。大学で登山の面白さを知ってから早三年が経ち学生生活も終わりである寂しさを実感するとともに、これまでに会った方々や怪我無く登った山々にはとても恵まれていたと改めて感じた山行でした。高橋支部長、学生連盟OBやご指導をいただいた方々に厚く感謝申し上げます。また、今後の東海支部の活躍に貢献できるよう尽力いたします。

(大同大学4年 喜田 陸)

楽しかった。過去の記録を見て、伊折ゲートからのラッセルを覚悟していた。しかし、今回は雪が少なく先行パーティーがいたのもあって、早月小屋までほとんどラッセルがなかった。何の問題もなく登れて、ほっとした気持ちもあったが、冬の早月尾根の醍醐味がないなと感じた部分もあった。メンバーの協力もあって、初めて3年間の成長を感じることができた山行だった。

(大同大学4年 豊吉泰生)

八ヶ岳縦走 美濃戸-硫黄岳-蓼科

2019年12月30日～2020年1月4日 学生2名(プラス3名)雪山で、2泊以上の山行が初めてだったので、出発前は不安と楽しみが入り混じっていました。日が経つにつれてシュラフや登山靴が

徐々に濡れ、寒くて寝られませんでした。装備を濡らさないことの難しさを痛感しました。しかし東天狗岳で初日の出を見た事、暴風でホワイトアウト寸前の硫黄岳に登れた事、高橋支部長にアイスクライミングの体験をさせていただいた事など、最高に楽しい山行ができた。指導していただいた皆様、ありがとうございました。

(中部大学3年 内藤忠広)



年末年始には学生連盟の先輩方は劔に行く計画を立てていました。自分もどこか山に行きたいと思い、八ヶ岳を縦走することにしました。年明けを山の中で越して初日の出を見ることができ充実した山行となりました。

今計画では雪山経験の少ないメンバーでありましたが無事に山行を行えて良かったです。高橋支部長をはじめ、常日頃からご指導やご支援をいただいている皆様に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(大同大学2年 草野駿希)

《徳本峠越え&ウエストーン祭参加者募集》

「日本アルプス」の名を広めた、W・ウエストーンや日本山岳会を結成した小島烏水、志賀重昂などの登山家が歩いた古の道“クラシックルート”から徳本峠越えをして山岳研究所へ、翌日はウエストーン祭に参加する企画です。

日 時： 6月 5日(金)～6月 7日(日)

行 程： 6/ 6 徳本峠越え(徳本峠入口～上高地 山研) 約20キロ 10時間

6/ 7 第73回、ウエストーン祭参加&信濃支部主催の午餐会参加(上高地温泉ホテル)

宿 泊： 6/ 5 石川旅館(新島々) 6/ 6 JAC 山岳研究所(上高地)

参加費：12,000円(山研宿泊料、ウエストーン祭参加記念品代、午餐会会費、傷害保険料含む)但し 往復交通費&石川旅館代は実費

募集人員：10名(東海支部員)支部友の方で参加希望の方は4月中に入会手続き必要。

問い合わせ&入会申込は 山研委員：松本 陽子：yo-kom@nifty.com

<http://jactokai.sakura.ne.jp/shibuhp/modules/pico04/index.php/content0049.html>

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(令和2年年7月～9月分) <夏山>

7月5日(日)・6日(月)

北アルプス南部・霞沢岳

☆☆☆ リーダー：磯部 隆 締切6月5日

7月10日(金)・11日(土)

奥三河・夏焼城ヶ・木曾山脈・恵那山

☆・☆☆ リーダー：田中 進 締切6月10日

8月14日(金)～16日(日)

北アルプス・立山三山(雄山・大汝山・別山)
縦走

☆☆ リーダー：村瀬恭平 締切7月14日

8月28日(金)～30日(日)

南アルプス・甲斐駒ヶ岳 テント泊

☆☆☆ リーダー：高松信治 締切7月28日

8月30日(日)・31日(月)

北アルプス南部・奥又白の池

☆☆☆ リーダー：磯部 隆 締切7月30日

9月5日(土)・6日(日)

北アルプス南部・蝶ヶ岳

☆☆ リーダー：水野猛志 締切8月5日

9月5日(土)・6日(日)

御嶽山系・御嶽山 小坂口ルート

☆☆ リーダー：村瀬恭平 締切8月5日

9月21日(月)・22日(火)

北アルプス南部・乗鞍岳・秘境五色ヶ原

☆ リーダー：金谷正起 締切8月21日

<山行>

9月6日(日)

野坂山地・岩籠山

☆ リーダー：今津英一朗 締切8月6日

9月26日(土)

湖北・赤坂山・三国山

☆ リーダー：田中 進 締切8月26日

次回支部友ミーティング 開催内容のお知らせ

① 第39回(予定)「2020夏山への誘い」

4月14日(火) 19:00～21:00 支部ルーム

講師：各山行リーダーがコースを説明します。

② 第40回(予定)「富士山2千回登山物語」

6月9日(火) 19:00～21:00 支部ルーム

講師：實川欣伸(じつかわよしのぶ)氏

支部友会員数

令和2年2月末現在/97名

山行対象者 支部友会員及び支部会員

申込み方法 ・支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。

・締切日 原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)

・支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。

・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

・<夏山>の申し込みは2山行まで、多数の場合抽選有。

2020夏山への誘い(4/14)に出席者は先行申し込み受け付けます。以降は各リーダーに申し込み下さい。

リーダー連絡先

尾上 昇 FAX: 052-832-3878

メール: onoe@onoe.co.jp

柿 将美 携帯 090-7237-4410

メール: m.sakaki@minds-consulting.jp

金谷正起 携帯: 090-9931-3600

メール: kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp

村瀬恭平 携帯: 090-4186-9876

メール: hoshizakari@docomo.ne.jp

田中 進 携帯: 090-9191-8666

メール: t-susumu@peace.ocn.ne.jp

今津英一朗 携帯 090-2616-7549

メール: imazu.eiitirou@maroon.plala.or.jp

磯部 隆 携帯: 090-9180-7245

メール: takass@yk.commufa.jp

松本陽子 携帯: 090-7859-4031

メール: yo-kom@nifty.com

高松信治 携帯: 090-3156-5268

メール: takama2nobu3@yk.commufa.jp

水野猛志 携帯: 090-5866-3781

メール: r34668@bma.biglobe.ne.jp

会 務 報 告

【2019年12月常務委員会】

日時：12月25日(水)19時00分～20時00分

1. 支部長挨拶(高橋)：この1年を振り返ると大きな事故もなく過ごせ感謝している。来年も安全第一をお願いしたい。先般年次晩餐会及び支部会議に出席してきた。本部120周年記念事業としてエクアドルとの交流登山、グレートヒマラヤのプロジェクト、花谷氏と合同で行っているヒマラヤキャンプやエベレスト登頂50周年イベント等報告があった。その中に日本列島古道調査もあり、全国津々浦々の古道調査を行うとのこと。当支部の塩の道同好会の活動も出ていた。年次晩餐会については陛下御列席のもと大変盛況であった。

2. 委員会報告

①岳連(高橋)：鎌倉氏の転勤に伴い、委員は鈴木へ交代。

②支部友委員会(金谷)：11月～12月の山行特に問題なく行った。12/14の忘年会は支部長以下88名程の出席があり盛況に終わった。

③山行委員会(鈴木)：12月～2月の山行について報告。12/14忘年山行は19名参加し大変盛況。3/23リーダー会議を予定。新規山行リーダー等今後検討する。

④亀の会(佐野)：12/26山ラリー合同山行で青峰山及び日和山。12/2月例山行にて金華山への山行を行った。1/1660山ラリー合同山行で常寒山及び船着山、1/23月例山行で吉祥山を予定している。

⑤猿投の森づくり委員会(和田)：12/21の納会は東海ユースの皆さんも参加され多くの方楽しんでいただいた。1/25～3月の取り組みとしてなごや環境大学の行事があり水源まで案内する。

⑥東海Youth(服田)：12月は定例山行を猿投山にて歩荷訓練を行った後、猿投の森の納会に参加させていただいた。12/28～本部ユースの蝶ヶ岳への山行へ2名参加予定。

⑦支部創立60周年記念事業(尾上)：予定通り支部報に概要を掲載。年明けには各WGのキックオフ会議を始めていただき、進捗等報告いただきたい。正副支部長会議にて予算の件を審議の予定。

⑧支部報編集委員会(星)：160号無事できあがり、明日発送予定。次号の原稿については来月の委員会にてご提案する。

⑨青年部(高橋)：鎌倉氏転勤に伴い委員長交代。現在選定中。2/29～3/1送別山行を御在所日向小屋泊で実施予定。

⑩登山学校運営委員会(榊)：11月～1月の山行及び机上講座について報告。今後計画書全てに注意個所等記入した地形図を添付する。指導者育成研修は昨日初回ミーティングを開催した。

⑪自然保護委員会(井藤)：モニタリング1000は10月で終了したのち現在資料作成中。次年度の活動のうち清掃登山を7/7猿投山にて実施が決まった。

⑫ボランティア委員会(前田)：11月で主だった事業は無事終了。今後次年度の事業の準備を行う。

⑬遭難対策委員会(山田)：11月はリスク3の計画書審査なし。救助隊活動規定、要領については2名の方からご意見をいただいた。3月末までに修正予定。

⑭写真展実行委員会(井上)：応募作品が今のところ60～70点の予想。ポストカードも出来上がったので、配布とあわせ、是非支部友や登山学校の皆さんにも応募いただきたい。

⑮技術向上委員会(片岡氏欠席につき佐野氏)：1/25にテーピング講座について12/19に講師を訪問して打ちあわせを実施。当日は定員制のため参加希望者は早めに連絡を。

⑯東海学生連盟(草野)：11月から1月の山行について報告。12/28～一部メンバーで予定していた剣岳については富山県警の許可も降り、実施。1/5の継鹿尾山でのイベントは現在20名ほど参加予定。

3. その他

会員名簿について(佐野)：本部の会員名簿について作成予定で進んでいる。個人情報保護士2名が入り今後全会員にもアンケートが行われる予定。

出席：佐野、山田、尾上、和田、金谷、鈴木、榊、服田、井上、星、井藤、草野

【2020年1月常務委員会】

日時：1月25日(土)19時00分～20時30分

1. 支部長挨拶(高橋)：新年会参加者70名で無事終了の報告。今シーズンは暖冬で学生が企画した冬の早月尾根は一泊二日で下山している。但し同ルートで別パーティーの遭難があり、また大日岳では大変な雪の様子なので気を付けてほしい。また、全国の支部間交流を今年は

積極的に進めていきたい事と、岳連担当を鎌倉氏から鈴木愛子さんへ変わる旨の報告があった。

2. 委員会報告

①総務(毛利):令和2年度の各委員会の事業計画を配布したので確認しておいてほしい。

②支部友委員会(金谷):1月6日の委員会議事録に沿って報告。11月12月の山行は無事終了、1月も予定通り進行している旨報告。現在、月に3~4件の山行があるが直ぐに満席になる。今後改善方法を検討していく。

③岳連(鈴木愛):第4回理事会報告書に沿って報告された。連絡事項として愛知山岳マラソン2020が猿投で実施される。70名の参加者が有るので猿投登山の予定者はルート変更など注意してほしい。また講習会の案内として登山勉強会を、愛知県スポーツ会館で2月11日、豊橋で2月18日に冬山研修会として予定。参加はフリー。また遭難キャンペーンの曲ができたので普及してほしいとの事だった。

④山行委員会(鈴木) 実施した山行と山行計画について問題なく予定通り。2020年度リーダー会議は3月23日に行う旨報告。

⑤猿投の森づくり委員会(和田):なごや環境大学による、瀬戸市の水源から家庭までの給水の動力を使わない仕組みについて勉強会を実施している。興味がある人は参加してほしい。

⑥東海ユース(服田):会員動向は18名。女性16名・男性2名で変更なし。1月予定は高見山9名の予定。2月は竜ヶ岳。

⑦60周年記念事業(尾上):4月から海外部門のトレッキングと海外登山計画がテーマに上がってきた。全国支部懇談会の準備も進行しており次号の支部報には随時掲載を予定している。各小委員会はワーキングGPを立ち上げスタートしてほしい。「関連事項」60山ラリーの報告を山田副委員長からあった。参加申込者は現在97名で100名の突破を目指しているとの事。

⑧支部報編集委員会(星):次回支部報は第161号で発行は4月1日。締切りは2月末日で、各目次に沿ってお願いをしている。

⑨青年部(高橋):鎌倉さん送別山行は2月29日・3月1日予定、梶浦さんはクライミングをした後カナダより帰国の報告があった。

⑩登山学校運営委員会(榊):山行報告・計画について別添資料により実施終了承認された。今回より地形図添付を徹底した。冬季に於けるツェルト装備は個人装備に移行していく事とし

た。12月15日実施の机上講習は冬山の、「気象の基本」をテーマに受講生39名、指導員その他の参加で、総数63名で講義を受けた。来年度からは夏期に「夏山気象の基本」、冬季に「冬山気象の基本」を年2回開講する。審議事項として令和2年度の事業計画を提案した。今後夏山フェスタからの入校生については事前に説明会を行った後に正式申込に進む事にした。3月に研修を行いこの中の卒業生から指導員、補助を担っていけるようにしたい。6月に卒業予定の多くの生徒に支部員になっていたできるよう仕組みづくりを検討中。

⑪自然保護委員会(井藤) JAC自然保護委員会全国集会、清掃登山、春の観察会は決定している。その他の猿投の森の動物調査は集計中。

⑫図書委員会(石田):令和1年事業報告と令和2年事業計画を報告した。出来るだけ全集の紹介をする様にしている。

⑬遭難対策委員会(山田):69件の届け出(内チェック表添付44件)があり、リスクグレード3の山行計画の可否を審査した。1月は2件出しており2件ともトレーニング計画。また救助隊活動規定、要領の見直しはほぼ終了、来月の常務委員会に最終案を提出する予定。

⑭写真展実行委員会(山内):3月の17回東海山岳写真展に向けて出品応募の状況は68点で現在も募集中。ポストカードの配布は30店ほど配布している。(カメラのキタムラ、三ツ星カメラ、ギャラリー、芸文センター、美術館、好日山荘、駅前アルプス等)

⑮ボランティア委員会(前田):議事録に沿って報告がされた。〈確認事項〉団体保険のその後の状況について質問があった。⇒毛利より本部加入の賠償保険は人権問題に関する事項を除いて全てカバーしている旨代理店より回答があった。従って、東海支部で独自に賠償保険に加入する必要がなくなったが、本部に賠償保険に人権問題の特約も加えるよう要求していくこととしたい旨報告あり。当賠償保険は、支部主催の山行に参加する非支部員も補償の対象になることの確認が必要との指摘があったが、日本山岳会の主催する山行が対象となっているので、非支部員参加者も補償の対象となるはずとの回答一要確認。

⑯デジタルメディア委員会(井上):1月から新たなホームページの利用で毎日17名位の人が見ている。また山行の申し込みも40~50人の人が利用している。集計の間違ひについては随

時修正してお知らせに載せている。またメルマガ東海支部便りは各委員会からの情報お知らせを発信する処なので是非活用してほしい。

(現在発信している委員会は、山行委員会・猿投の森づくり委員会・写真展実行委員会・技術向上委員会)

⑩技術向上委員会(片岡)：1月25日に技術向上委員会として第1部に至学館大学の佐藤教授による“テーピングの実技”と第2部に三浦先生による“体の構造の関節版”を行う事にした。参加者は40名。

⑪総務委員会(毛利)：2020年度支部主催行事スケジュールを配布。各委員会の行事の立案にあたっては支部主催行事と被らない様に配慮してほしい旨要請があった。

出席：高橋、尾上、榊、毛利、市川、前田、山内、星、井藤、佐野、片岡、金谷、井上、山田、鈴木、石田、服田、和田

【2020年2月常務委員会】

日時：2月26日(水) 19時00分～20時40分

1. 支部長挨拶(高橋)：コロナウイルスの影響により数々のイベントが中止となっている。情勢は刻々と変わっており、山行にあたっては不安の声があれば慎重に対処いただきたい。岐阜の山岳会では御嶽山で遭難事故があった。計画書が提出されていなかった。皆さんも山行の際には留守本部を設定し、万々に備え対応を。次年度に向けての活動として、全国の支部と交流を積極的にしていただき、支部員に楽しんでいただくため、佐野副支部長のもと、支部交流委員会を立て上げる予定。

2. 委員会報告

①総務(毛利)：5/17に支部総会とマカルー登頂50周年記念行事をOMCビルにて行う予定。また、今年度の支部事業報告書について配布させていただいた。誤りがあれば今日明日にでもご連絡いただきたい。

②会計(市川)：退会となる3年間未納になりそうな方が4名。また支部友は1年未納で退会となるが7名。委員会費用について来月の委員会にて領収書及び残金と収支報告を提出いただきたい。次年度予算について60周年記念事業費について計上するため必要経費を報告いただきたい。

③支部友委員会(金谷)：1月～2月の山行は1件雨で中止となったが他は無事終了。次年度の夏山については現在8コースを予定していて4月の支部友ミーティングにて夏山への誘いを

開催予定。

④亀の会(加藤)：次年度より山行計画と報告について若干の変更を加える。山行中止時の下見費用として積立金の使途として米寿のお祝い山行経費などを加えた。

⑤猿投の森づくり委員会(油井)：なごや環境大学全4回中3回まで無事終了。

⑥東海ユース(服田)：1月～2月の山行報告。

⑦支部報編集委員会(星)：161号の原稿受領状況について配布資料のとおり。2件記事が追加となった。未提出の原稿について月末の〆切までに提出いただきたい。

⑧支部創立60周年記念事業(尾上)：各パートとも順調に進んでいる。全国支部懇談会について大枠が決まった。海外登山についても徐々に決まりつつあり、海外トレッキングについては7/1支部報にて公募内容を公示予定。

⑨青年部(高橋)：2/29～3/1鎌倉委員長の送別会は20名余の参加予定。4月は滝根ガイドを講師にユースとの交流会を予定している。

⑩登山学校運営委員会(榊)：指導員候補者研修は順調。登山学校修了者OB・OG会(仮称)発足について設立趣意書と運営要領案を配布→一部文言を修正することし、発足承認。

⑪東海学生連盟(草野)：12月から3月の山行について報告。冬山トレーニングについて順調に進んでいる。

⑫ボランティア委員会(前田)：2月以降の活動について報告。補導委託登山については家庭裁判所から次年度の委託文書を確認。JAC入会に際しての障がい者特例についてその後の経過を確認したい。→(佐野)先日理事会に諮ったところと聞いているが、各支部の意見も聞く必要がありすぐには難しい状況。少しでも早くの導入について引き続き働きかけていく。

⑬写真展実行委員会(山内)：最終的に79点となった。現状、会場にについてコロナウイルスによる影響はなし。岐阜支部特別出展については引き続き検討となった。

⑭デジタルメディア委員会(井上)：コロナウイルス関連で悪質なチェーンメールが出回っている所以注意を。

⑮技術向上委員会(片岡)：1/25のテーピング講座は無事終了。定員満員となり盛況。非常に良い内容だった。

⑯海外登山(高橋)：菊池氏よりCanadian Rockies Climb&Rideについてチャレンジ基金の申請書が提出された。申請内容は配布資料の

とおり。この場にて審議し可否について決定したい。→承認。

⑰60周年記念事業、国内事業担当委員会：『60山ラリー』の経過報告です。

2020年1月30日現在で1、参加者数103名、2、登頂実績 登頂数1,165座(内訳150座以上1名、55座～99座8名、30座～49座4名、10座～29座11名、1座～9座4名)※登頂はされているけれども登録されている方が少ない。HPを利用して登録して戴くか登頂報告をハガキで送っていただければ委員会で登録していきます。3、60山ラリー同日登山実施 実施日11月3日(休日) 対象一各委員会に依頼し、山行を実施して頂くよう依頼する、個人山行を計画する 対象山岳一自由～詳細未定、メルマガ・支部報でPRする 4、60山ラリー登頂記(参加者)一支部報に掲載依頼する。

出席：高橋、佐野、片岡、尾上、毛利、市川、金谷、前田、加藤、榊、油井、山内、服田、井上、星、草野、鈴木(愛)

ルーム日誌

- ・— 12月 —・—
- 2(月) 支部友委員会/支部報編集委員会
 - 3(火) 県岳連/TNCC会
 - 4(水) 青年部
 - 5(木) 写真展委員会
 - 6(金) 古道塩の道
 - 9(月) 登山学校運営委員会
 - 10(火) 支部友ミーティング
 - 12(木) 自然保護委員会/東海学生山岳連盟
 - 13(金) 60山ラリー(19時)
 - 16(月) 図書委員会、読図会
 - 17(火) ボランティア委員会
 - 18(水) 山行委員会/総務委員会・正副支部長会議
 - 19(木) 東海学生山岳連盟
 - 24(火) 登山学校指導員研修会
 - 25(水) 常務委員会
 - 26(木) 支部報発送・技術向上委員会/遭難対策委員会
 - 27(金) 東海学生山岳連盟
 - 28(土) 猿投の森運営委員会

- ・— 1月 —・—
- 6(月) 支部友委員会
 - 7(火) 県岳連/TNCC会
 - 8(水) 青年部

- 9(木) 自然保護委員会/写真展委員会
- 10(金) 古道塩の道
- 14(火) 登山学校運営委員会
- 15(水) 山行委員会/総務委員会・正副支部長会議
- 16(木) 東海学生山岳連盟
- 20(月) 図書委員会・読図会
- 21(火) ボランティア委員会
- 22(水) 常務委員会
- 23(木) 技術向上委員会/東海学生山岳連盟
- 24(金) 亀の会/60山ラリー小委員会
- 25(土) 猿投の森運営委員会
- 27(月) 支部友読図
- 28(火) 遭難対策委員会
- 30(木) 全国支部懇談会小委員会/東海学生山岳連盟

- ・— 2月 —・—
- 3(月) 支部友委員会
 - 4(火) 県岳連/TNCC会
 - 5(水) 青年部
 - 6(木) 写真展委員会/60周年委員会
 - 7(金) 古道塩の道
 - 10(月) 登山学校運営委員会
 - 11(火) 支部友ミーティング
 - 12(水) 60山ラリー(19時～)
 - 13(木) 自然保護委員会
 - 16(日) 写真展実行委員会
 - 17(月) 図書委員会・読図会
 - 18(火) ボランティア委員会
 - 19(水) 山行委員会/総務委員会・正副支部長会議
 - 20(木) 東海学生山岳連盟
 - 22(土) 猿投の森運営委員会
 - 25(火) 支部友読図
 - 26(水) 常務委員会
 - 27(木) 技術向上委員会/遭難対策委員会

会員異動

入会：三原丈直(16557) 古室乃武男(16570)

退会：山田みどり(15066) 櫻井玲子(15746)
鬼頭光義(15703)

物故：本田昌司(6915)



INFORMATION

【総務委員会からのお知らせ】

【令和2年度支部総会・東海支部マカルー学術登山隊50周年記念講演会と懇親会のお知らせ】

支部総会と東海支部マカルー学術登山隊50周年記念講演会を下記日時と場所で開催します。

期 日：5月17日（日）

第1部 総会；午後3時30分～4時30分

第2部 講演会：4時30分～6時

第3部 懇親会：6時～7時30分

場 所：OMCビル4階講堂

会 費；懇親会参加者2,500円程度

（学生：1000円）

1970年東海支部が派遣したマカルー学術登山隊は世界の登山界から大変高い評価を得ています。今年で50周年を迎えるにあたり、貴重な映像を交えながら、マカルー初登攀の意義と評価について日本山岳会元会長で東海支部の常任評議員である尾上 昇氏に講演をお願いします。皆様お誘いあわせの上参加ください。

※同封した返信用ハガキに出欠を明記の上、速やかにご返送ください。尚、総会欠席の方は委任状のご提出も併せてお願いいたします。

【第8回夏山フェスタ開催のお知らせ】

第8回夏山フェスタが下記要領にて開催されます。東海支部も全面的にバックアップしていますので、お誘いあわせの上ご来場ください。

日 時：6月27日（土）～28日（日）

場 所：ウインクあいち 7F・8F

主 催：夏山フェスタ実行委員会

事務局：中部経済新聞社 事業部

イベントの内容：

① 山に関するセミナー、著名人の講演会、元プロスキーヤー?で100名山挑戦中の萩原次晴氏、俳優の石丸謙二郎氏、山と溪谷社の名物編集者で日本山岳会常務理事の萩原浩司氏、モデルで山の日アンバサダーの仲川希良さんなどの出演が内定している。

② 登山用品メーカー、関連団体、自治体などによるブース出展・東海支部も相談コーナーの出展を予定。

③ 山小屋・山岳関連団体の相談コーナー

④ 山岳写真展など。

※詳細は、別紙チラシをご覧ください。

総務委員長 毛利 邦男

【写真展実行委員会からのお知らせ】

コロナウイルスが流行のおりから、「第17回東海岳人写真展」の開催可否を少し前から検討しておりましたが、政府の要請や他のイベントが中止されるなか、来場者、関係者の健康・安全を守るため、この3月17日からの開催を見送り、改めて別の期日に開催することに決定いたしました。

世の中の情勢が毎日のように変わって行く中、開催できる方策を模索していましたが、最終的に開催は困難と判断せざるを得ない状況になりました。延期後の開催日程はこれからの検討となります。同じ会場を予定すると1年後くらいになる可能性があります。その時には、出展者の皆さんからお預かりした素晴らしい作品たちを安心してご覧いただけるようになることを期待しております。

写真展実行委員長 山内 薫

【ボランティア委員会からのお知らせ】

恒例となりました春のブラインド登山を行います。

日 時：5月9日（土）8時30分に金山市民会館南集合

行 先：各務原アルプス 各務原遺産の森～金毘羅山、明王山～大岩見晴台

*5月9日（土）に予定していましたが、SON 愛知支援登山は、SO 国際本部より「新型肺炎の影響により中止とする」旨の連絡があり、秋に延期する予定です。

問い合わせ等は、ボランティア委員会まで

ボランティア委員長 前田隆久

編集後記

新型肺炎が猛威を振るって、私達の活動も影響が出ている。インフォメーション等でお伝えする各行事が無事行われるよう祈るばかりである。一方、自然災害の恐れも常に備えが必要である。春山登山は安全第一で。

星 一男

海外トレッキングのパイオニア!

世界の山旅を手がけて48年



“山仲間オリジナルツアーを企画しませんか?”
説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 052-581-3211 アルパインツアー 検索
〒450-0002 名古屋市中村区名原3-73-2 (第3千福ビル3階) www.alpine-tour.com

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

SINCE 1975

mont·bell

ウェア・ギアに
遊び心もそろえて
お待ちしております

アウトドア用品は、
機能的なアイテムが豊富に
そろうモンベルストアへ。



- 岐阜店 岐阜県岐阜市柳津町丸野3-3-3 カラフルタウン エミノ内
- 各務原店 岐阜県各務原市那加萱場町3-8 イオンモール各務原 2階
- 豊橋店 愛知県豊橋市飯村町西山7-645
- 長久手店 愛知県長久手市市平1丁目901
- 名古屋店 愛知県名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークロフト 6階
- ららぽーと名古屋みなとアクルス店 愛知県名古屋港区港明2-3-2
ららぽーと名古屋みなとアクルス 1階
- 新静岡店 静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1 新静岡セノバ 4階
- ららぽーと磐田店 静岡県磐田市高見丘1200 ららぽーと磐田 1階
- 浜松店 静岡県浜松市東区上西町985-1 浜松プラザウエスト内
- 長島店 三重県桑名市長島町浦安368
三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階
- 鈴鹿店 三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2 イオンモール鈴鹿 1階
- モンベルルーム御在所店 三重県三重郡菟野町大字菟野8625
(御在所ロフトウエイ前)

豊橋店・名古屋店・長久手店・長島店では、アウトレット商品も取り扱っています。

【お問い合わせ】 0088-22-0031 / TEL.06-6536-5740
モンベル・カスタマー・サービス ※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
デザイン、インテリアやセキュリティなど
オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえでお応えいたします。



郵送無料 Honesty

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。
お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457

法務相談は行政書士にお任せください!

相続 会計 許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます

遺言書、遺産分割協議書、
法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506

名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004 久屋大通駅 徒歩1分
www.nygs-office.com

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒461-0044 名古屋市中区矢田東1番22号
TEL (052) 719-0677 FAX (052) 719-0678
E-mail: info@asai-rbs.co.jp